

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY

なごや
ちくさ

題字 黒野清字

名古屋千種ロータリークラブ
承認 1982年 8月24日
例会日 火曜日 12:30
例会場 愛知厚生年金会館
事務局 TEL763-5110 FAX763-5121
会長 西川豊長
幹事 中山信夫
会報委員長 西尾正巳

No. 11

築け未来を 行動力と先見の眼で

BUILD THE FUTURE WITH ACTION AND VISION

1996~97年度 RI会長 ルイス・ピセンテ・ジアイ

* 新世代プログラム強調月間—「ロータリアンは新世代の鑑」*

きょうの例会

第682回 平成8年9月24日(火)

講演 “日本企業 中国進出の現状
及びその対策”

名古屋大学 法学部 博士課程
虞建新氏 (紹介 吉田(節)君)

先週の記録

第681回 平成8年9月17日(火)晴/雨

- ◇ “それでこそロータリー”
- ◇ お誕生日祝福
吉田(節)君(9/23)
- ◇ 出席報告
会員 70(69)名 出席 52名
出席率 75.36%
前々回 9月3日(修正出席率) 98.55%
- ◇ ビジター紹介 5名
- ◇ ニコボックス
紙面の都合により次回掲載させていただきます。
- ◇ 中山幹事報告
 1. 本日例会終了後諮問委員会を開催致しますので諮問委員の方は2F橋の間にお集まり下さい。
 2. 名古屋和合RCより、ご案内があり9/18(水)名古屋美術倶楽部3階にて和陶会を開催されていますので、是非お立ち寄り下さい。
 3. 次回例会終了後理事役員会を開催致しますので理事役員の方はお残り下さい。
 4. 米山だよりが来ておりますので、お帰りにお持ち下さい。
- ◇ 西川会長挨拶

昨日の新聞(中日朝刊)によりますと、本日から、土木学会全国大会が名古屋で開かれ、名古屋大学工学部地圏工学科の松岡譲教授(環境

システム)が、アジア各国の工場などで排出される二酸化硫黄(SO₂)によって、将来アジア全域が酸性雨による大気汚染の深刻な影響を受ける恐れがあるという、注目すべき研究発表をさせるというのであります。

当クラブでは、以前に酸性雨について松井春夫先生(工業技術院名古屋工業技術試験所通商産業技官、理学博士)の卓話をして頂き、その際(株)六法出版社発行の「空中鬼」と題する松井先生の著書を会員全員が頂戴したことを思い出しました。早速ひもといてみますと、酸性雨を中心に地球規模環境問題を判り易くかつ興味深く書かれております。

この本によりますと、中国では酸性雨を「空中鬼」といい、これは、空からやってくる鬼という意味だそうです。つまり、化石燃料(石炭、石油、天然ガス)を燃やした時に大気中に出てゆく窒素酸化物や硫黄酸化物は空に漂う死神であり、その死神たちが雨に混ざり鬼となって地上に降りてくるのです。窒素酸化物は硝酸、硫黄酸化物(亜硫酸ガス)は硫酸が雨と混ざり、酸性雨となるのです。

前述の新聞によると、松岡教授らの研究グループは、主な排出源として、アジア全域から化石燃料を大量に燃やす火力発電所や大規模工場など355カ所を選び、1990年(平成2年)の石炭、石油の燃焼量を基に、コンピューター予測をしたもので、その結果、2020年の1㎡当たりの硫黄量は、

東京 1990年の5倍
上海 8.7グラム(1990年は1.5グラム)約6倍

バンコク 0.68グラム(同0.0048グラム)と、深刻な環境悪化の進むことがあらためて判ったのであります。

上海など工場が集まる都市部で高い値を示

している中国で排出されたSO₂は、偏西風によって、九州、沖縄、朝鮮半島、台湾にも影響を与えます。今でも黄砂現象などで皆さんもよくお判り頂けると思います。

今回の研究では、主要な排出源しか考えられていませんが、実際のSO₂量は、5倍から10倍を予想され、地域によっては重大な大気汚染がもたらされる恐れがあるということでもあります。

酸性雨の被害がどんなものかは、松井先生の「空中鬼」を読みますと、ヨーロッパやアメリカの例を詳しく述べておられますので、ご一読願いたいと思います。

松岡教授は、「アジア各国には脱硫装置を設けた工場がほとんどないのが現状で、今回の研究結果は、日本がこれをどう援助していくかなど、地球規模の環境対策を広く議論するための有力な情報であろう」とされています。ロータリーの環境保全活動の指針になるのではないかと思います。

◇講演

“御岳山や雲仙岳の噴火、兵庫県南部地震、山梨東部地震、宮城北部地震等の重要な意味”
総合科学研究所長

正村 史朗氏 (紹介 水野(民)君)



日本列島は、ほぼ1100年(平均1108年)間隔で、濃尾大地震に始まり中央構造線超巨大地震に終わる一連の時系列の大地震と火山の噴火をくり返している。それは、日本列島を、北上する伊豆小笠原列島が突き上げているというテクトニクスからの、巨大な地殻変動の理論通りの動きなのである(正村史朗著「兵庫県南部地震はなぜ発生したか」第17図106頁参照)。

中央構造線の和泉～石鎚活断層(日本列島の下に潜り込んだフィリピン海プレートの先端の中央部分)が動く前に、潜り込んだフィリピン海プレートの周辺部分がずると動き出す。そこで、潜り込んだ先端箇所のマグマ溜りからマグマが絞り出されて、東の端で御岳山が噴火し、西の端で雲仙岳が噴火し、それに連なる中央構造線上の九重連山や、鶴見岳、阿蘇山が噴火する。

また、潜り込んだ先端の中央の箇所では、播磨(兵庫県南部)地震M7.1～7.2(第1次の前震)が発生し、次に、潜り込んだフィリピン海プレートの東の側面で相模～武蔵(神奈川～東京、

埼玉)地震M7.4前後(第2次の前震)が発生し、最後に中央構造線・和泉～石鎚活断層に直結する花折～金剛活断層、有馬～高槻活断層で京都～大阪地震M6.4～6.7(第3次の前震)が発生した後、中央構造線(和泉～石鎚活断層)超巨大地震M8.3～8.7(本震)が発生することになる。(同書第1図20頁参照)

この日本列島の巨大な地殻変動に伴って、太平洋プレートとの境界や、アムールプレートとの境界、糸魚川～静岡構造線などの活断層も動くことになる。ほぼ1100年間隔の地殻変動と、地震の空白域、地磁気の異常などから、今後10年(延びても20年)以内に、全国各地にM7クラスの被害地震の発生が予測される。

これらの大地震が予測される箇所は次々と本格的に動き始めている。この2年間に発生した内陸部の中地震は、どれも、予測される大地震の周辺部にのみ発生している(広義の前震)。

例えば、近年、首都圏で頻繁する微小地震の上限の規模が、1980年代のM2～3から最近ではM4～5の規模にエスカレートし、1996年には山梨東部地震M5.8が発生するなど、関東大地震の前と同じ状況を呈している。この山梨東部地震の震源は、相模トラフ活断層が陸上へ上陸した箇所であり、関東大地震の差異にも、ほぼ同じ震源で、ほぼ同じ規模の、広義の前震M5.9と、余震M6.8が発生している。

地震の「直前予知」としては名古屋工業大学の畑雅恭教授の電磁波観測による方法が確実で最もすぐれている。兵庫県南部地震の前にも広義の前震と異常な電磁波の発生があった。濃尾大地震も、関東大地震も、兵庫県南部地震…なども、すべて、偶然に発生しているのではない。地震は「事前に」理論的に「予測」できる。畑教授の全国的な電磁波観測網の整備について江湖の理解あるご支援ご協力を希求する次第である。

◇例会変更のお知らせ

- | | |
|---------|---------------------------------------|
| 名古屋空港RC | 9/30(月)心身障害児招待飛行の為、9/22(日)名古屋空港にて9時より |
| 名古屋和合RC | 10/2(水)職場例会の為、ナゴヤドームにて11時45分より |
| 名古屋大須RC | 10/3(木)4RC合同例会の為 |
| あまRC | 10/7(月)秋の家族会の為、10/6(日)郡上八幡方面へ |
| 名古屋中RC | 10/7(月)4RC合同例会の為 |
| 名古屋栄RC | 10/7(月)4RC合同例会の為 |
| 名古屋名東RC | 10/8(火)職場例会の為、京大にて |

◇次回例会(10月1日)

- 米山月間に因み
- 李宙祐君 自己紹介
- 木全米山奨学委員長報告